上高井教育会報

第221号
発行所　上高井教育会
発行人　上高井教育会理事長　望月千恵子
編集人　会報編集委員長　宮川まゆみ
印刷所　須坂新聞社

新発田市（旧紫雲寺町）米子小学校との交流
最後の交流～これからも両地の絆を大切に
仁礼小学校

九月四・五日に、新潟県新発田市米子小学校の五・六年生が、須坂市と仁礼小学校に訪問し両校の交流が行われました。

仁礼小での交流会

この交流は、須坂市米子出身の竹前権兵衛・小八郎兄弟で紫雲寺潟の工事にあたった縁で、須坂市と姉妹都市提携を結んだことがきっかけで始まりました。最初の学校間の交流は、平成二年に姉妹都市提携五年を記念し、米子小学校児童五・六年生と仁礼小学校が行っています。それから、二十五回続いてきましたが、今回の交流で一区切りとして、終えることになりました。

この交流が、仁礼小学校で始まり、仁礼小学校で終わるのも、何かの縁を感じます。

そこで、今回の交流では、ぜひ米子小学校の子どもたちに、竹前兄弟の出身地である米子の地を訪れてもらおうと考えました。そして、米子瀧山不動寺で、副住職さんから、竹前兄弟の逸話とともに米子と紫雲寺のつながりの深さについてお話をいただくことにしました。

荘厳なお堂で、子どもたちは副住職さんのご講話に静かに耳を傾けていました。講話の最後は「米子小の皆さんは、竹前権兵衛・小八郎さんのおかげで、豊かな地があることをわすれないでほしいし、仁礼小の皆さんは、竹前小八郎さんのように、人を思いやる気持ち、困っている人を助けてあげようとする気持ちを受け継いでほしい。遠く離れた地であっても、これからも人と人の絆を大切にしてほしい。そして、敬う気持ちをもってほしい。」と締めくくられました。

米子瀧山不動寺でのご講話

そのさとホールでのそば打ち体験

これで米子小学校との交流は終了しますが、両地の絆はこれからも続いていくことと思います。

（柳澤　和彦）

教育会だより

7・29 教育会夏期講演会
○講師 諏訪東京理科大学教授 篠原菊紀先生
○演題「脳を鍛える活脳トレーニング」
8・7～8・30～8・1 同好会夏期講座
8・7～8 日連教徳島大会
9・1 教育七団体代表者会
25 教研中間連絡会
3 理事会④
4 教研推進委員会④
11 研究推進委員会④
12 同好会⑤
16 学校代表者会④
18 教研学校代表者会（レポート交換日）
10・1 理事会⑤
2 研究推進委員会⑤
4 第61回上高井教育研究集会
16 同好会⑥
18～19 郡市科学作品展（シルキーホール）
27 郡研究委員会外国語英語（日滝小）公開授業実施
29 第五回理事会
教育会会計中間監査会
31 研究推進委員会⑥
11・1～2 あゆみ展 市学芸展（シルキーホール）
4 教研推進委員会⑤
13 研究推進委員会⑥
14 研究委員会公開研究会
中心講師 伏木久始先生
会場 小山小 算数数学
国語（栗ガ丘小、社会（旭ケ丘小）、理科（墨坂中）
生活総合（須坂小）、音楽（相森中、
図工美術（小布施中）、体育保健体育（相森中）
技術家庭（小布施中）、道徳（栗ガ丘小）
特別支援教育（森上小）、健康教育（豊洲小）
人権教育（小布施中）
15 信州「教育の日」飯山大会（飯山市民会館）
『ともに学びともに育つ環境づくりをめざして』
28 学校代表者会⑤
12・2 教研学校代表者会③
13 同好会⑧
17 上高井教育会報第二三一号発行
18 研究推進委員会⑦

各校の教育活動

高甫の自慢「八町きゅうり」

高甫小学校

「八町きゅうり」を食べたことがありますか？私は高甫小学校に赴任して初めて八町きゅうりに出会いました。普通のきゅうりに比べて太く、知らない人が見れば「育ちすぎたきゅうり」と思うかもしれません。しかし食べてみると、皮が薄くてみずみずしく、とてもおいしいきゅうりだということが分かります。

高甫小では毎年三、四年生が八町きゅうりを育てています。地元のJAに苗を受け取りに行き、そこから栽培が始まります。植えてからは毎日欠かさず水やりを行います。子どもたちは時間になると自分たちで声をかけ合って集まり畑へと出かけていきます。根を痛めないように慎重に水をあげるのが難しいのですが、その時の子どもたちの表情は真剣そのもの。Aさんの観察日記には「苗を植えてから水をあげたら、ものすごい速さで水を吸収していました。八町きゅうりってすごいなあと思いました。」と書いてありました。まるで生き物のようにかわいがって育てた子どもたち。

これからも高甫の大切な宝物を受け継いでいきたいものです。

（小林志津代）

第四十七回鳳凰祭

小布施中学校

『小布施町にゆかりのある鳳凰。その生き血は永遠の命を与え、その姿を目にした者は、大いなる幸せを手にすることができると言われている。しかし鳳凰は、いつしかその姿をどこかに隠してしまった。鳳凰を復活させるため、STARS探検隊は鳳凰の森へと旅立った…。』

「STARS～一人一人が輝くために～」というテーマのもと、第四十七回鳳凰祭が開催された。全校生徒が探検隊となり、自分や周りの良さ、輝きを見つけ、それらを集めて鳳凰を復活させようというのが、今年の鳳凰祭のコンセプトであった。

二日間の中で、意見文や英語スピーチ、ミニ運動会や音楽会などの発表を通して、お互いの良さにふれることが出来た。展示発表でも、本校施設の特徴の一つであるランチルームに展示会場を作ることで、全校が一堂に会して学習の成果を共有することができた。

写真の鳳凰は、閉祭式で復活を果たした鳳凰である。一枚一枚の羽には、学級長が記した、鳳凰祭に向けた各学級の取り組みの成果が書かれ、今も玄関ホールに飾られている。こうして第四十七回鳳凰祭は、多くのSTARSが放った輝きを残して閉幕した。

（小林　順）

本校の中核活動「嬉しい変化」

日野小学校

「全校で取り組もう！」と、子ども達と年度当初の集会で約束した事は三つ。そのうちの一つが「膝つき無言清掃」。

心の醸成を目指して日々行っているが、十分な支援と完成の姿までのゴールはまだまだ先にある。しかし、変化が見られてきた。

元気な力が溢れている男子は、清掃時間が始まる前から雑巾がけをしている。以前は教師用の椅子に座ってふざけていたこともある、元気パワーの持ち主。時間いっぱい床を磨いていた後に聞いてみた。なぜそうじをがんばっているの？と。彼は「やり方がわからなかったけど、今は分かる。」とさらりと答えてくれた。

全校共通で取り組み、全学年ができるようになった「膝つき」の雑巾がけ。トイレの床をゴム手袋なしで磨く子は「この方が力が入るから」と、差し出すゴム手袋を断った。

さっきまで教室で雑巾がけをしていた一年生の姿が急に消える。少しすると、教師用机と棚の隙間から這い出てくる。誰も見ない所に心を向け、雑巾を真っ黒にし、嬉しそうに戻ってきたのだった。

清掃をする趣旨説明をし、やり方を教え、共に練習し、キレイになることを実感させ、賞賛し続ける…。分担が変わる時ごとに指導し、暇にならないように役割と人数を調整し、振り返りの場を設け、委員会と連携し、放送で賞賛し…。前向きな子ども達と具体的に支援する職員との活動になってきた近頃。今後の変化と醸成を楽しみに全校で取り組み続けていきたい。

（小林　稔）

各校の教育活動特集

しらかば学習発表会

高山小学校

高山小学校の特色ある行事に「しらかば学習発表会」がある。総合的な学習や生活科・教科等の学習で取り組んできた活動のまとめを発表したり聞いたりする場である。毎年十一月上旬の土曜日に開催するのだが、発表する力や聞く力の目標を連学年で設定し、保護者や地域の方々、友だちを前に、発表し合い聞き合う地域公開の日として過ごす。

今年のしらかば学習発表会は、十一月八日に実施予定である。一・二年生は、生活科を中心に学習してきた「秋探し」や「臥竜公園探険」などについて展示する。三・四年生は、総合的な学習の時間「たかやま」で学習してきた「高山村のりんごの秘密」や「高山村のワインぶどう」などについて発表する。五・六年生は、社会科で学習してきた農業・水産業の発表や、「たかやま」で学習してきた味噌・綿・「高山パンフレット」などについて意見発表する。

どの学級も工夫を凝らして、自分たちの学習してきた道筋を大勢の人に知らせたいと、張り切って準備している。表現する力をつける絶好の一日、それぞれの子が満足感で一杯になればと願っている。（田鍋隆行）

グランセローズの選手に教わったこと

井上小学校

井上小学校の三年生は、五月二十日（火）に、信濃グランセローズの選手たちに来ていただき、野球を教わりました。グローブをつけて、ゴロとフライを取る練習、テニスラケットを持って、ボールを打つ練習など、三年生の実態に合わせて、基礎技術を楽しく教えていただきました。

技術以外に、とても大切な二つのことを教えていただきました。一つ目は、「あいさつ」です。緊張のせいか、授業の始まりが小さな声だった子どもたちに、「あいさつはもっと元気に、気持ちをこめてやろう。」と最初に教えてくれました。プロの世界で活躍している選手たちも、あいさつを大事にしている姿を見て感じることが大きかったと思います。

二つ目は、「勉強もがんばる。」ということ。楽しい野球の授業が終わり、お別れの時に、「ぼくたちも野球だけしていたわけじゃない、今が一番大事だよ。しっかり勉強しよう。」と言葉を残してくれました。自分の夢を叶えるには、やりたいことだけやっていてはだめ、嫌なことも面倒なこともやり抜く力が必要なのだという意味があったのではないかと思います。

野球を通して本当に素敵なことを学びました。（中村佑夏）

本校の宝 65

森上小学校

森上小学校は今年で創立八十年を迎えました。現在の校舎は創立五十周年にあたる昭和五十九年に建設されました。

森上小学校と言えば、校庭の桜がとても有名です。校舎西側の桜は約三十年前に植えられた木だそうです。春にはとてもきれいに咲き、子どもたちはお花見を楽しみにしています。また、給食委員会の企画で、桜の下でお花見給食を続けています。地域の方も森上小の桜が咲くのを楽しみにしています。これからも森上小のシンボルとしてこの桜を大切にしていきたいと願っています。

次に森上小学校の校歌にも歌われている青桐の木です。青桐の木は鳳凰の止まる木と言われる縁起のよい木だそうです。冬を前にきれいに枝と葉が落ちても毎年青々と葉を茂らせてくれます。校章にも青桐の葉が描かれていますが、これは青桐のように、児童がすくすくとたくましく成長してくれるようにという願いが込められています。

創立七十周年に記念としてPTA作業で作っていただいた築山（通称「森上山」）は子どもたちに大人気の場所です。休み時間には上に登って遊んだり、冬にはそり遊びしたりと、一年中子どもたちが集まってくる場所です。

最後に、八十周年を記念して、今まで歌い継がれてきた校歌を合唱曲に「わかすぎたつやさん」に編曲していただきました。音楽会ではPTAコーラスで発表し、記念式典では会場にいる参加者全員で三部合唱しました。

これからもこの素晴らしい校歌をはじめ森上小を大切にしていきたいと思います。

（須山　均）

火ばち談義

オタマジャクシ

矢野早智代

豊洲小学校の特別支援学級「りんご組」は、虫が大好きな五年生男子、猫が大好きな六年生男子の三名のクラスです。

生き物が好きな三人なので、何か生き物をお世話することができないかと考えていた丁度そのころ、三年生の子どもたちが、学校のすぐ前の側溝でカエルの卵を見つけたのです。「これはおもしろそう。」とすぐに飛びつきました。子どもたちはもちろん、私自身も初めて見るカエルの卵。蛇のような透明な帯の中に、黒い粒々が無数に入っているのです。一体、幾つぐらい入っているのか数えてみたくなりました。見つけたのが休み前だったので、休み明けに数えることを楽しみにしていたのですが…なんと、月曜日に登校してみると、すでに卵がかえっていて、長さ五ミリにも満たない小さなオタマジャクシが、うじゃうじゃ泳いでいました。それでもあきらめずに、オタマジャクシの数を数えることにしました。小さなカップでオタマジャクシをすくい、カップの中の数を数え、別の水槽に移していく作業を繰り返しました。活動に集中して取り組むことが苦手な子どもたちですが、なんと、二百七十五匹まで数えることができました。

生き物相手というのは思うようにはいかず、オタマジャクシもほとんどがなくなってしまい、最後にカエルになったのはたったの二匹でした。この二匹がカエルになるまでは、毎日水槽をのぞいては、「足が出てきたよ。」「尻尾がなくなってきた。」などと、嬉々として私に報告してくれました。カエルになってからも、えさ探しや水槽の掃除など、とても一生懸命に取り組むことができました。

カエルの世話はなかなか難しく、一か月くらいでお別れとなってしまいました。現在は、親めだか、子めだか、どじょう、かたつむりがいっしょに生活しています。最初のころほど水槽の前に三人が集まっていることは少なくなりましたが、この小さな仲間たちから、たくさんのことを学んでいると感じています。

（豊洲小）

ゴーシュの縁

長瀬純一郎

プロのチェリストでもある音楽科の小島遼子先生が墨坂中学校に臨時採用職員として赴任されたのは昨年の十月のことであった。同じ三学年のよしみで、卒業する生徒たちに何か特別な贈り物ができないかと、翌二月、「音楽朗読劇、セロ弾きのゴーシュ」を企画した。

学年主任をはじめ、三学年職員の快諾によって実現した。それは、本心からいえば実際のチェロ（セロ）の演奏を自分自身が楽しむために企画したようなものでもあった。

人前での演劇の経験など皆無、まして生演奏付きの「音楽朗読劇」である。さらに企画した手前、脚本から音楽まで、すべて考えなくてはならないのには困った。その上受検を控えた三学年の貴重な一時間でもある。中学校に就いたばかりの初任の私が下手なことはできないと、楽しみな反面、成功するか恐ろしくもあった。

しかし、結果からいえば劇は大成功のうちに幕を閉じた。小島先生と旧知の仲であるピアニストの坂原美菜さんにも加わって頂き、朗読のみならず合奏の響きに浸ることができたのは、望外の幸せというほかない。中でも三学年全クラスの合唱曲を編曲して作られたメドレーは、圧巻であった。（現に生徒の感想の大半は朗読よりもむしろそちらに割かれていたように思う。）生徒と、そしてその場にいた職員全員が聴き惚れていた。当初の目論見通り、卒業した当時の三学年にとって、この上ないはなむけとなったと自負している。

今年、初めて一学年のクラス担任を受け持った四月、ありがたいことに再び同じメンバーでこの催しをさせて頂く機会に恵まれた。中学に入学して間もない一年生には、それがよくあるレクリエーションの一つと捉えられたとしても結構である。

ゴーシュは物語の中で、様々な動物たちに導かれ、自らの演奏を作り上げてゆく。この劇を通して私が感じたことは、その時でなければ実現しなかったという、不思議な「縁」の存在であった。

この経験が、今後どのように繋がってゆくか、このかけがえのない「縁」に感謝を覚えずにはいられない。

（墨坂中）

編集後記

猛暑の中でスタートした二学期も、美しい紅葉の季節を経て、いよいよまとめの時期となりました。各校とも、当初に計画した行事が滞りなく行われたことと思います。子どもたちの成長が認められ、一つ一つの活動から十分に充実感を得られたのではないでしょうか。

さて、ここに上高井教育会報第二二一号をお届けすることができました。各校で行われた工夫いっぱいの教育活動や先生方の思い・実践の記録等がぎっしりと詰まったものとなり、各校・先生方の熱意を感じ取っていただけたら幸いです。

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました先生方、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

（浅野）

カット
須坂支援学校　森山裕士